

「わたしたちのくらしと市電」

指導目標	<p>◎身近な公共交通機関である市電の歴史や現状について、興味をもち、自己課題を設定することができる。</p> <p>◎見学活動や聞き取り調査などの活動を通して、自己課題の解決に必要な情報を収集することができる。</p> <p>◎自己課題と調べたことを結び付け、市電のよさや今後のあり方について考えを深めることができる。</p> <p>◎市電のよさと今後のあり方について、市電新聞にまとめ、他者に発信することができる。</p>
公共交通を教材とする利点	<p>鉄道事業者が新型車両をほぼ毎日運行している理由を追求する活動を通じて、市民の期待に応え、さらに新型車両の良さを広めようとする事業所の人々の願いを考えることができるとともに、自分たちの暮らしを支えている人々の存在が身近になり、地域に対する愛着を育むことができる。</p>
対象学年	4年生
対応教科	総合的な学習の時間
標準校時	12コマ
学習構成	<div style="border: 1px solid #ccc; padding: 10px;"> <p style="text-align: center;">1. 昔の市電を調べよう</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <ul style="list-style-type: none"> ・昔の市電を調べる活動を通じて、まちの広がりや市民のくらしの変化に伴い市電も改良され、市民の便利なくらしを支えてきたことを知る。 <p style="text-align: center;">2. 今の市電を調べよう</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <ul style="list-style-type: none"> ・電車事業所の見学やインタビューなどの活動を通じて、現在の市電は多くの人に支えられて運行していることを知るとともに、路線数減少や乗客数減少などの問題点について考える。 ・一方でより便利になってほしいという市民の声があることを知る。 <p style="text-align: center;">3. これからの電車について考えよう</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新型低床車両がほぼ毎日運行されている理由を考えることにより、市民の要望や期待に応じて、市民がより便利な暮らしができるように、様々な取り組みが続けられていることを理解する。 <p style="text-align: center;">4. 市電新聞をつくらう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・私たちの生活を支えている市電について学習したことを新聞にまとめて、多くの人に電車のよさを広める。 </div>

札幌らしい交通環境学習とは、「MM※教育」に着目し、「交通」の中に存在する「社会的ジレンマ問題」を通じ、広く、環境意識や公共の精神を醸成することを目的としている。初等教育における学習教材として適することが、これまでの研究事例等で明らかとなっている。

※「MM」とは、一人ひとりの移動（モビリティ）が、個人的にも社会的にも望ましい方向へ自発的に変化することを促すコミュニケーションを中心とした交通施策。

■実施例

実施校 札幌市立山鼻南小学校

実施日 2013年10月28日（月） 6校時

科目/単元名

総合的な学習の時間「わたしたちのくらしと市電」
[12時間扱い 本時9/12]

指導者

高橋 浩史

[指導計画]

1.教材にかかわって

①学習指導要領の位置づけ

[小学校学習指導要領解説 総合的な学習の時間編]

●第4章指導計画の作成と内容の取扱い 指導計画の作成に当たっての配慮事項（5）

学習活動については、学校の実態に応じて、例えば国際理解、情報、環境、福祉・健康などの横断的・総合的な課題についての学習活動、児童の興味・関心に基づく課題についての学習活動、地域の人々の暮らし、伝統と文化など地域や学校の特色に応じた課題についての学習活動などを行うこと。

総合的な学習の時間では、各学校において指導計画を作成し、そこには内容として、目標の実現のためにふさわしいと各学校が判断した学習課題を定める必要がある。この学習課題とは、(中略)横断的・総合的な学習のとしての性格をもち、探究的に学習することがふさわしく、そこでの学習や気づきが自己の生き方を考えることに結びついていくような、教育的に価値のある諸課題のことである。(中略)地域や学校、児童の実態に応じて内容を設定し、具体的な学習活動として展開することが求められる。(以下、略)

②モビリティ・マネジメント教育の視点から

本校の校区のすぐそばを市電が通る。電車事業所も校区に隣接し、今春から導入された新型車両も目にする事ができる。街中を走る市電の姿は、子どもたちにとって見慣れた光景である。

一方で、市電を日常的に利用する子どもは、多くはない。自家用車の普及を始めとしたモータリゼーションの発達が、札幌市の市電の運営状況にも大きな影響を与えている。

本単元の学習を、「過去—現在—未来」という時間の流れを軸に構成する。札幌市の発展を支えてきた市電の歴史と、路線や乗客者数の減少という問題に直面している現在。そして、さらに多くの市民に愛される市電を目指す、これからの市電のあり方。時間の流れを見つめることで、様々な問題に直面しながらも、それを乗り越えようとする人の営みが見えてくる。

電車事業所見学や資料の読み取り・保護者への聞き取り調査などの活動を通して、市電の運営に携わる人々の営みを、具体的かつ共感的に探求することができる学習を展開していきたい。

本単元の学習を通して、子どもにとって地域のくらしを支えている人々の存在がより身近になり、地域に対する確かな愛着が育まれることを願っている。

③資料の活用

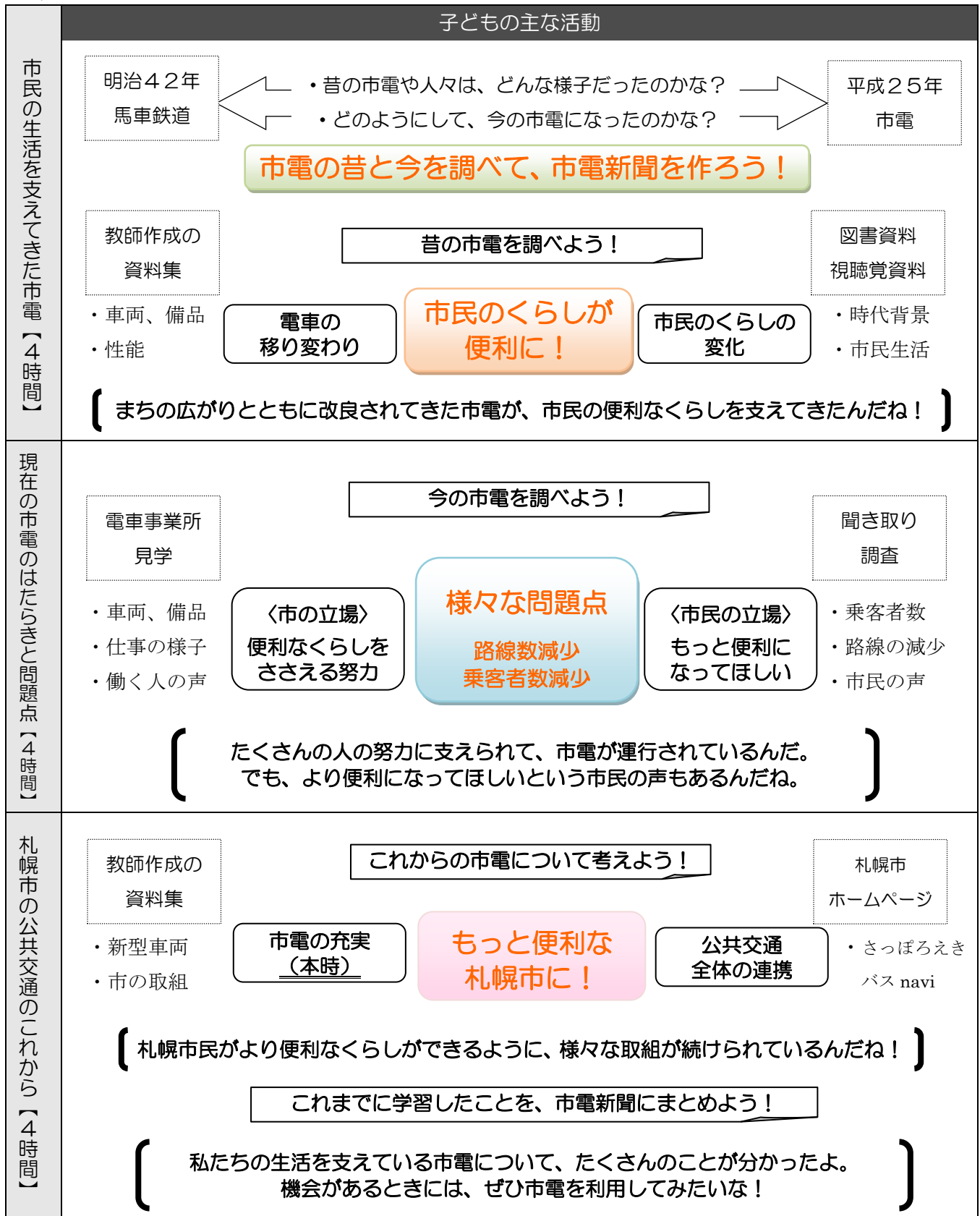
本単元の学習では、児童の実態に応じた資料を教師が作成し、配布して使用する。

2.単元にかかわって

●単元の目標

- ・身近な公共交通機関である市電の歴史や現状について、興味をもち、自己課題を設定することができる。
- ・見学活動や聞き取り調査などの活動を通して、自己課題の解決に必要な情報を収集することができる。
- ・自己課題と調べたことを結び付け、市電のよさや今後のあり方について考えを深めることができる。
- ・市電のよさと今後のあり方について、市電新聞にまとめ、他者に発信することができる。

●単元の構成



3. 本時の目標と学習展開

●目標

- ・電車事業所が新型低床車両をほぼ毎日運行させている理由を追究する活動を通して、市民の期待に応え、さらに新型底床車両のよさを広めようとする電車事業所の人の願いを考えることができる。

●展開

学習展開	教師のかかわり
<p>(前時まで) 電車事業所見学や聞き取り調査などの活動を通して、市電の運行に様々な人が携わっていることや、路線や乗客者数の減少が続く市電の問題点について理解している。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 20%;"> <p>旧型の車両 →月6回程度の点検の日は、その車両は使わない</p> </div> <div style="text-align: center; width: 60%;"> <p>新型低床車両は、ほぼ毎日運行させている</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 20%;"> <p>新型低床車両 →点検の日も、点検終了後、午後から運行</p> </div> </div> <p style="text-align: center; background-color: red; color: white; padding: 5px;">新型低床車両を、ほぼ毎日運行させている理由を考えよう！</p> <div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; width: 30%;"> <p>普段から利用する人たちのために</p> <ul style="list-style-type: none"> ・広い窓で景色を楽しんでほしい ・お年寄りや体の不自由な人に、快適に移動してもらいたい ・広い車両でたくさんの人を運べるように <p>快適な車両を</p> </div> <div style="text-align: center; width: 30%;"> <p>広めるために！</p> </div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; width: 30%;"> <p>まだ乗ったことがない人のために</p> <ul style="list-style-type: none"> ・多くの人に、新型車両に乗ってもらいたい ・その日しかない観光客にも乗ってもらうため ・見てもらうだけでも、新型低床車両の存在が伝わるから <p>一人でも多くの人に</p> </div> </div> <p style="text-align: center; font-weight: bold; font-size: 1.2em;">新型低床車両のよさを、より多くの人に広めたい！</p> <p style="text-align: center;">実は、新型車両が運行してからほぼ毎日…</p> <div style="text-align: center; font-size: 2em;">〔</div> <p style="text-align: center;">新型低床車両が走る時刻についての問い合わせが、電車事業所に届いている。〕</p> <div style="display: flex; justify-content: space-between; align-items: center;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 25%;"> <p>新型車両に興味のある人がそれだけ多いのだと思うよ。</p> </div> <div style="text-align: center; width: 20%;"> <p>市民の期待</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 25%;"> <p>まだ乗ったことがない市民も大勢いるのではないかな。</p> </div> </div> <p style="text-align: center; font-weight: bold; font-size: 1.2em;">市民の期待にこたえるために！</p> <p style="text-align: center; background-color: red; color: white; padding: 5px;">多くの市民の期待を背負った新型底床車両だからこそ、ほぼ毎日運行させて、多くの人によさを広めようとしているんだね！</p>	<p>教師のかかわり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・点検後の車両の使い方を比較し、問題意識を生む。 ・左記の事実をあくまでも原則であることを子どもに伝える。(乗客者数や点検の状況によって、変更する事も有り得る。) ・車両を運行させている電車事業所の立場で、子どもたちの思考を整理する。 ・問い合わせの電話が続いている事実を市民の立場で考えることで、新型車両に対する期待感に気づかせる。

板書計画

新型低床車両を、ほぼ毎日運行させている理由を考えよう！

<p>新型車両</p> <p>点検が終了後も、午後から運行。</p>	<p>新型低床車両のよさを広めたい！</p> <p>↓</p> <p>市民の期待にこたえるために</p>	<p>あまり利用しない人のために</p> <p>多くの人によさを知らってもらう</p> <p>走りることがPRになる</p> <p>その日しか乗れない人もいるはず(観光客、仕事の都合…)</p>
↑	↓	↓
<p>旧型車両</p> <p>点検日は、その車両は使わない。</p>	<p>いつも利用する人のために</p> <p>少しでも乗る移動を(お年寄り、体の不自由な方…)</p> <p>たくさんの人を運べる</p> <p>景色を楽しんでほしい</p>	<p>一人でも多くの人に</p>

市民の期待にこたえ、新型低床車両のよさをより広めるために、ほぼ毎日運行させている！

4.本時で活用する資料

●本時で活用する資料

